

# 地域防災マップ作成講座 9月26日・27日

9月26日と27日の両日、赤江地域センター会議室にて「地域防災マップ作成講座」が開催され、あわせて約60人が参加しました。講師は山口大学・大学院の瀧本浩一准教授です。

まず問われたのは私たちの「防災意識」でした。多くの人が災害というと「人ごと」で、最近山口県で起きた大規模な水害のニュースをテレビや新聞で見聞きしたとしても、私たちは「よそで起きたこと」という認識からなかなか脱することができません。宮崎でも4年前、台風14号が襲来し、一部の地域で甚大な被害を受けました。それでも、もしものことを考えて備えをしている人、このような防災セミナーに参加する人は少ないように思われます。

## <日向灘地震>

さて、瀧本先生の話によると、私たちが最も警戒しておかなければならないのは、いつか来るであろう「日向灘地震」です。活断層の構造から、阪神大震災と同じ「直下型地震」であること、もし起きたら阪神大震災と同じ規模のマグニチュード7～7.5ほどの大きな地震になるだろうということは、科学的データから分かっているそうです。分かっているのは「いつか」だけです。そこで「もし起きたら」ということを考えて、私たちが今、備えておくべきことがいくつかあります。

## <防災意識>

第一に、何と言ってもまずは防災に関心を持つことです。宮崎市が発行している防災に関するパンフレットを一度でも目にしたことがあるでしょうか。あるいは防災グッズをご自宅の分かりやすい場所に保管しているでしょうか。まず第一に自分と自分の家族が助かるための備えをしておくことが大事です。

阪神大震災のときの死者は5488人で、そのうち4224人が圧死でした。家の中を防災という視点で見直し、家具は固



▲「天」は水害、「地」は地震、「人」は犯罪。防災意識は防犯意識にもつながるそうです

定するとか、場合によっては耐震強度も調べてもらう必要があります。

## <地域を見直す>

第二に、地域のつながりです。災害のときに頼りになるのは隣近所の人たちです。常日頃からいいお付き合いをしておくのも一つの「備え」と言えます。

第三に、自分の地域をよく知っておく。今回の講座では実際に地域を歩いて地域を防災という視点から見直しました。

**チェックその1.** 皆さんの家の周辺に、消防車が入れないような道幅の狭い道路はありませんか？

**チェックその2.** 広場や公園、オープンスペース(学校・神社・空き地)が近所にありますか？

**チェックその3.** 災害のとき、一人で避難できない要援護者の人は近所にいませんか？

**チェックその4.** 津波警報が出た際、避難所になりそうなビルやマンションは近所にありますか？ 津波は通常、10トトラックが時速50\*で走ってくるようなものですから、普通の家は壊滅します。

**チェックその5.** 家のブロック塀は大丈夫ですか？ 地震のときはそれが崩れて歩道を歩いていた子どもの命を奪いかねません。今回、地域を歩いて1メートルを超えるブロック塀を多数見かけました。大きな地震だと間違いなく壊れると思います。

## <最後に>

今回の瀧本先生の話は、日頃、「平和ボケ」「安全ボケ」している人たちにはかなりショッキングでした。

今年に入って宮崎県内で起きた地震は27件あり、このうち日向灘を震源地とする地震は10件起きています。いずれもM3～4の小さな地震ですが、自分たちができる最小限の備えはしっかりしておきましょう。



▲グループに分かれて防災マップを作りました

## 被災地から学ぶ「自主・防災力向上」研修事業参加報告

赤江地域まちづくり推進委員会  
事務局長 寺田 祥二

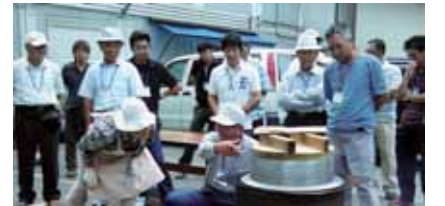
1995年、6000人もの死者を出した阪神淡路大震災の被災者である、語り部田中保三さんによる講話は、大変身につまされる思いもあり、映像も当時の災害の悲惨さを見るにつけ、思わず涙する場面もありました。言葉では言い尽くせない、どう表現すればよいのか私には、とてもこんな悲惨な状況を語れない、そんな思いでした。しかしこれをそのまま風化させてはならないと、田中さんをはじめボランティアの皆さん方が必死になって資料づくり等の活動をされているんだなあと思いました。

被災直後は、公共交通機関は寸断され、電気、水道、ガスなど全ての生活インフラが使用不能になる中で隣近所の方々、青年会議所の皆さん、ボランティアの皆さん、関係機関の皆さんが必死になってあとかたづけなどを行っている姿を見ました。翻って平穏な日々を続けている私たちも災害への心づもりが必要だと感じていました。

被災地を巡って感心したことは、大変な災害を受けて、街が見事に復興している様子でした。語り部の田中さんの話によると、人と人のつながり、又自治会の活動がいかに大切であるかということでした。又忘れてならないのは多くの方々の、特に青年会議所の皆さん方の救援活動が復興を早めたのだと言われていました。

「人と防災未来センター」見学では震災追体験コーナーにて大型スクリーン映像による「地震破壊」のすさまじさを音響を通じて体感しました。また震災直後のまち並み、たくさんの写真を見るにつけ、今さらながら震災の大きさにビックリしたものでした。

まだまだたくさんの震災の様子、この街が見事なまでに復興した様子など書きたい思いはありますが、以上を踏まえて、私は、今、自分に何ができるのか考え、自分の出来ることを精一杯、地域の自主防災、減災に役立てたいと思っております。



## 環境部会

# ハンギングバスケットをつくったよ

8月24日(赤江公民館)、25日(本郷公民館)、26日(赤江東地区交流センター)にハンギングバスケットの寄せ植え教室を開催しました。ハンギングマスターの新名れい子先生と鍋島妙子先生を講師にお迎えし、3日間で総勢93名が参加しました。ベゴニアや初雪カズラなど色とりどりの花があり、それぞれに工夫して植え込みました。先生のアドバイスもあり、とても素敵なバスケットができあがりしました。「大事に育てたい」「また作ってみたい」という声が聞かれました。

